

# 宮崎海岸保全の基本方針(案)の検討

## 対策に対する市民意見

市民談義所等では、**対策の早期実施、構造物設置の反対、自然環境の保全等**のさまざまな意見があった。

安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早急に対策を実施して欲しい、台風による浸水が心配</li> <li>・構造物を入れて欲しいまたは早急に砂浜を復元して欲しい</li> <li>・安全確保、生命・財産の優先を第一に考えて欲しい</li> <li>・市民提案工法を採用(試験施工含め)して欲しい</li> </ul>
自然環境保全・利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の浜を残して(取り戻して)欲しい</li> <li>・持続可能な対策を実施して欲しい(ビーチサイクルを考慮など)</li> <li>・アカウミガメ・コアシサシ等の生物環境に配慮して欲しい</li> <li>・コンクリート構造物(護岸、ヘッドランド等)を作らないで欲しい</li> <li>・漁業、サーフィンなどの利用ができなくなる対策には反対</li> </ul>
その他(連携等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政機関が連携して取り組むべき(河川、ダム、港湾、保安林など)</li> <li>・ダム、港湾、保安林、導流堤を撤去して欲しい</li> <li>・セットバックについて議論して欲しい</li> <li>・住民、サーファー、研究者、行政が知恵を出し合って話をする円卓会議がほしい</li> </ul>

## 各種調査・技術的検討

### 各種調査

- ・既存資料調査
- ・測量
- ・環境調査(生物等)
- ・波浪・流況観測
- ・トレーサー調査
- ・アカウミガメ調査
- ・利用調査

### 試験養浜の実施

### 調査・試験養浜でわかったこと

- ・長期的・広域的な**砂の流れは南向き**
- ・水深約10~12mより浅い所で砂が移動
- ・**消失土砂25万m<sup>3</sup>/年**(一ツ瀬川~住吉海岸)
- ・**港周辺に22万m<sup>3</sup>/年堆積**(宮崎港周辺)
- ・一ツ瀬川以北からの土砂供給は減少
- ・動物園裏や大炊田で**浜崖が後退**
- ・宮崎海岸における基礎情報(地形、底質、生物、波浪、利用等の各情報を取得中)
- ・養浜に伴う生物や濁りへの影響は小さい
- ・**アカウミガメの産卵、利用、環境、景観に配慮した養浜**の手法の確立
- ・粗めの養浜砂は汀線付近に残りやすい

## 宮崎海岸侵食対策の基本方針

### I 対策の目的

- ・海岸の環境や利用と調和を図りつつ、海岸侵食に脅かされる海岸背後地の**人々の安全・安心を確保**するとともに、有料道路や田畑等を保全する。

### II 対策の目標

- ・「**背後地(人家、有料道路等)への越波被害を防止**すること」を防護目標とし、そのために必要な「**浜幅50mの確保**」を達成することを目指す。
- ・現況汀線位置が浜幅50m以上である区域については、流砂系も含めた対策により、その保全・維持を目指す。

### III 対策の考え方

- ・北からの流入土砂を増やすこと(**機能①**)、南への流出土砂を減らすこと(**機能②**)により、これまでに失われた宮崎海岸の土砂量を回復・維持し、砂浜を回復・維持する。
- ・急激な侵食の危険性がある区域において、浜崖の後退を抑制する。**(機能③)**

### IV 対策検討における配慮事項

- ・新たに設置する**コンクリート構造物**は出来るだけ**減らす**。
  - ・それぞれの**区域の特徴に応じたもの**とする。
  - ・豊かな**自然環境**を最大限**残す**。
  - ・美しい**景観**や漁業、サーフィン、散歩等の**利用に配慮**する。
  - ・(直轄)工事完了後も**維持管理**に過剰な**負担がかからない**ようにする。
  - ・**山、川、海における土砂の流れ**に出来るだけ**連続性**をもたせ、将来は自然の力による砂浜の回復・維持を目指して、様々な取り組みを行っていく。
- ただし、その取り組みは時間がかかることから、当面は他事業と連携した養浜を積極的に実施していく。

### V 事業の進め方

- ・今後もこれまでと同様、「**宮崎海岸トライアングル**」および「**宮崎海岸ステップアップサイクル**」の考え方に基づいて進めていく。